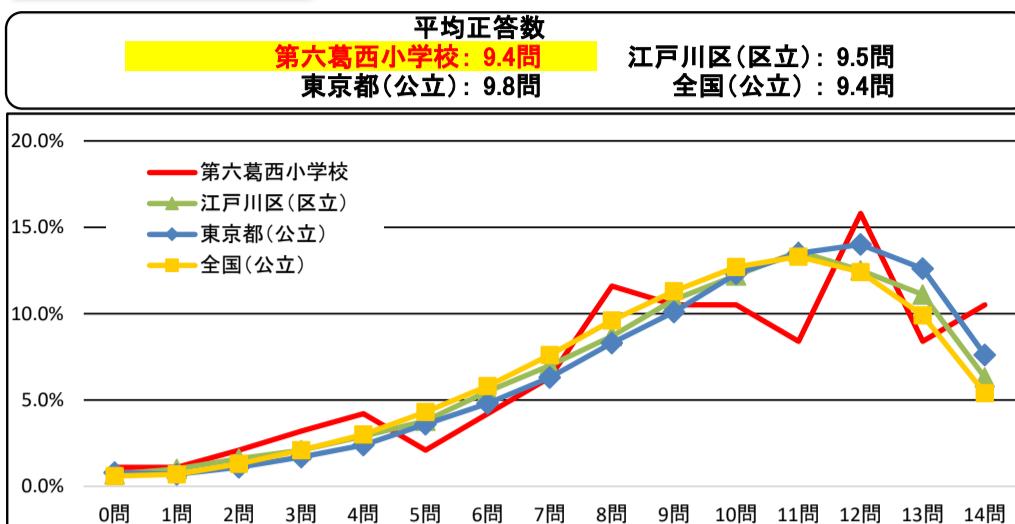


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】江戸川区立第六葛西小学校

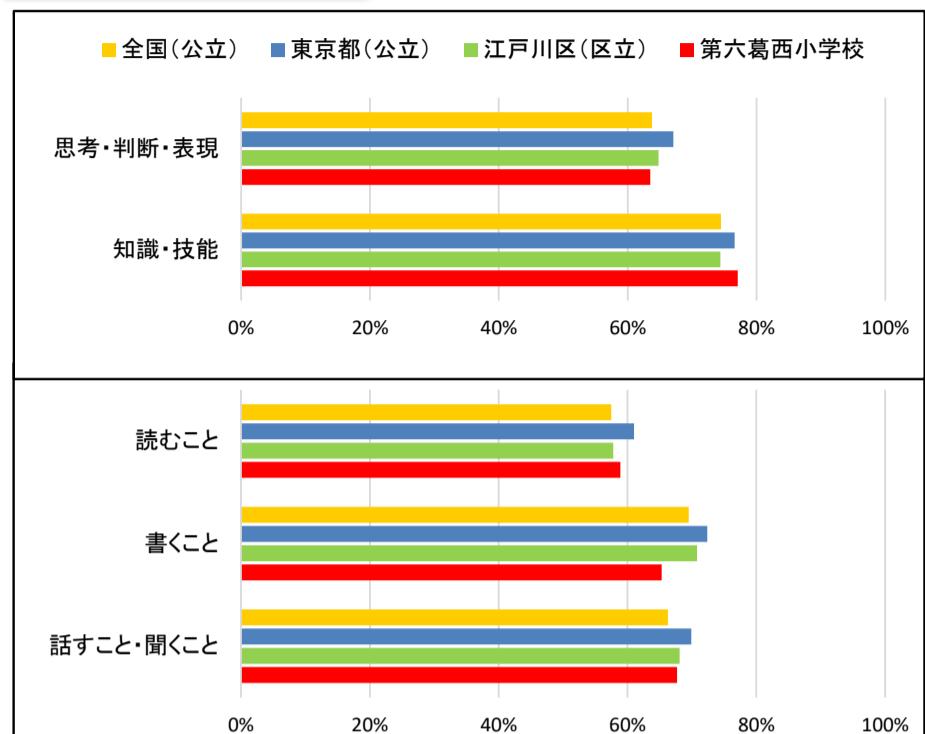
正答数分布



【平均正答率の差】

校名	平均正答率
第六葛西小学校	67%
江戸川区(区立)	68%
東京都(公立)	70%
全国(公立)	66.8%
都との差(ポイント)	-3.0

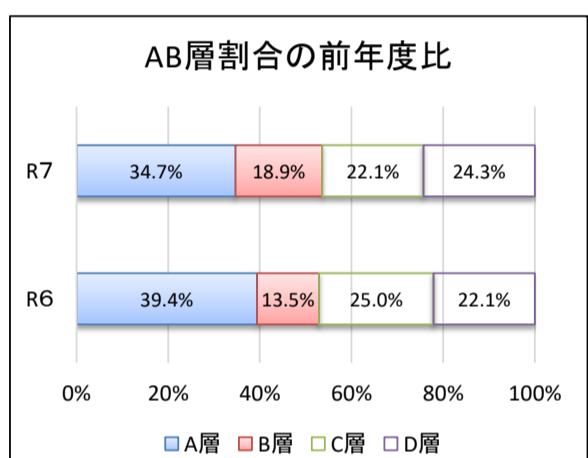
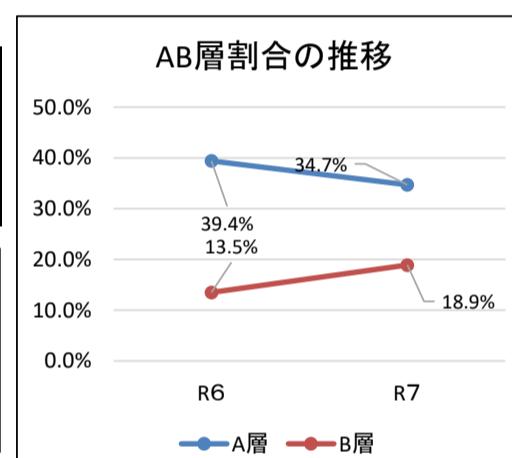
「領域別」の結果



四分位における割合 (都全体の四分位による)

国語	上位 ← → 下位			
	A層	B層	C層	D層
第六葛西小学校	34.7%	18.9%	22.1%	24.3%
江戸川区(区立)	30.0%	25.8%	19.5%	24.7%
東京都(公立)	34.4%	25.8%	18.4%	21.4%
全国(公立)	27.7%	26.0%	20.9%	25.4%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について
A層の割合は、34.7%と都や区を上回っているが、AB層の割合は53.6%と都、区を下回っている。平均正答数も9.4問と他と比べて低い。「領域別の結果」から思考力・判断力・表現力を問われる問題や「読むこと」に課題があることが分かる。

《学校の取組》

・教員の指導力向上
・「いきいきと学び、表現できる子を目指して」を研究テーマに校内研究を行い、指導方法や学習環境の工夫改善を図る。
・学力向上委員会を中心に、国語科スタンダードを活用した授業展開の基本を確立する。
・ICT研修を行い、ICTを効果的に活用した授業展開を共有し、改善を図る。

・基礎学力の保障

・読む力を伸ばすために、朝読書や読書科の学習を通して、読書時間の確保。
・読売新聞社の「よむYOMU」ワークシートを活用し、内容の要約や自分の意見を書く活動を継続して行う。

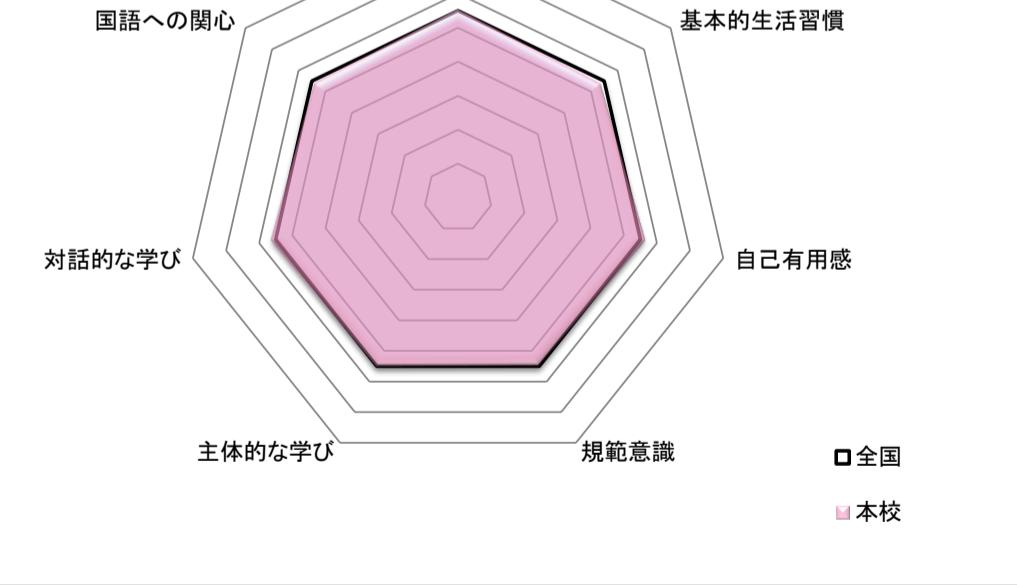
・学習習慣の確立

・学年の実態に合わせて、毎日音読の宿題を出している。
・江戸川っ子study week! の期間にドリルパークで課題を配信し取組状況を確認する。
・ドリルパークの正答率や取組時間などを取り上げ、頑張っている児童を認めることで、やる気を引き出す。

・AB層の育成

・図や表、段落構成を使った読解指導を行い、文章を構造的に捉えられるようにする。
・単元を通して、対話的な学びを取り入れ、自分の意見を表現したり、他者の意見と比較したりしながら考えられるようにする。

国語平均正答率



《チャートの特徴》

- ・全国の結果を1としてみた時に、平均的な様子が見て取れる。
- ・国語への関心はやや全国を下回っているが、平均正答率については、全国の肯定的回答合計値を上回っている。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・保護者へ読み聞かせの活動をお願いしたり、図書室の整備を行うボランティア活動をお願いしたりしている。
- ・保護者会や個人面談、学校公開、ホームページ等で児童の学習状況を伝え、保護者との連携していく。